

とちぎコープ 2025 トピックニュース

「2025 国際協同組合年」 学びや交流が行われました

協同組合は、同じ願いを持つ人同士がつながりあい、事業を通じて願いを実践する組織です。国連は2025年を「国際協同組合年」と定め、世界中で協同組合の役割を知らせるためのイベントや交流が行われました。とちぎコープでも職員が協同組合について学んだことを宅配の担当者ニュースや店舗の売り場で発信したほか、組合員理事やブロック委員がイベントなどで活動をアピールしました。

その他の取り組みはこちら▶



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



▲「とちぎコープフェスタ in うつのみや」で
国際協同組合年を広くアピール

被爆・戦後80年 平和を次世代につなげています

とちぎコープでは、3月に「ピースアクション in オキナワ」8月に「ピースアクション in ヒロシマ」に組合員親子が参加するなど、平和の大切さを次世代へ継承する取り組みを実施しました。6月から7月にかけては店舗や宅配センターに組合員が集い、平和への願いを込めて鶴を折りました。一つ一つ丁寧につなぎ合わせて千羽鶴にし、ピースアクション in ヒロシマに参加した子どもたちによって「原爆の子の像」に奉納しました。10月には「宇都宮空襲戦跡めぐり」、11月にはコーププラザ宇都宮で「映像と語りで学ぶ宇都宮空襲戦跡めぐり」を実施しました。



コープデリコールセンターが 稼働しました

10月6日、コープデリ宅配の問い合わせ窓口として、コープデリコールセンターの運用が始まりました。これまでは各地域の宅配センターで電話を受けていましたが、事務担当者の体制が少ない時間帯は応答できないことがありました。コールセンターで集中して受電することで応答率を向上させ、また、お問い合わせいただいた内容を集約・分析することで、コープデリ宅配のサービス向上につなげます。(画像はイメージです)

